

令和7年度 大阪府立箕面支援学校 第2回「学校運営協議会」議事録

日 時	令和7年11月21日（金） 10:00～11:40（本校校長室にて）		
出席者	協議会委員	職名等	学校事務局
	山本 智子	皇學館大学 教育学部 准教授	平井 晋也 校長
	阿久根 賢一	学校法人園田学園 副理事長 社会福祉法人天森誠和会 理事長	稻野 早苗 教頭
	千馬 外代美	本校後援会 会長	松田 里絵 教頭
	大辻 美幸	本校保護者（P T A会長）	切通 圭介 事務長
			藤嶋 耕治 首席（小学部付）
			宮脇 敦子 首席（中学部付）
			李 容司 首席 養護教諭
			長峰 祐介 小学部主事
			竹中 俊 中学部主事
欠席者			丹羽 はるか 高等部主事
			北村 直樹 首席（高等部付） 事務局長
おもな テーマ	「令和7年度 学校経営計画の進捗状況について」		
協議内容 の概略	1. 校長挨拶 2. 令和7年度 学校経営計画の進捗状況について 3. 令和8年度 使用教科用図書について 4. 学校見学 5. 事務局より 6. 校長より		

<p>協議内容 質疑応答 ・ 提言等</p>	<p>【開会、平井校長挨拶】</p> <p>学校施設は、照明機器が LED に交換され、先日行われた「もみじフェスタ」でも、照明の切り替えがスムーズだった。「もみじフェスタ」では、先生方が子どもたちに寄り添いながら、力を引き出してくださっていることを感じた。</p> <p>日々の学習でも、児童生徒はそれぞれの力に応じて取り組みつつ、ICT を活用している。各学部の修学旅行にも同行し、児童生徒のできることが増えてきたと実感した。</p> <p>現在、大阪ではインフルエンザ警報が出ており、さらにコロナも増えてきている。寒いコロナ禍で学んだ感染対策で、児童生徒の健康管理に努めていければと思っている。</p> <p>今日は短い時間ではありますが、どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>【令和 7 年度学校経営計画について】</p> <p>〈平井校長〉</p> <p>① キャリア教育</p> <p>それぞれの学部で「どこでもカフェ」の体験学習を実施。児童生徒たちは実際に体験しながら職業観を育て、楽しみつつ将来について考えられるよう取り組んでいる。</p> <p>② 個別支援計画・シラバス</p> <p>現在、大阪府全体でシステム変更が行われている。個別の支援計画書やシラバスの様式が新しくなるため、夏休みにはその内容を踏まえた研修も行い、改定を進めている。</p> <p>③ スヌーズレン室</p> <p>ホームページでの紹介がまだできていないが、児童生徒たちのリラックスに繋がるよう活用している。</p> <p>④ 業務改善</p> <p>時間外勤務は大幅に減少している。情報発信は校長ブログを中心に行っており、月 10 回程度の更新を目標としている。</p> <p>保護者への連絡は Google フォームやメールでの配信が増え、学年単位でも配信している。そのため、プリントでの配付は大幅に減少している。今後、大阪府のシステムも変更されるため、より便利になる見込みである。</p> <p>⑤ 地域連携</p> <p>リーディングスタッフなどが各校を訪問し、相談を受けたり、研修講師として関わったりしている。進路支援では、福祉事業所などとの相談を進めている。</p> <p>⑥ 人権活動</p> <p>児童生徒会が中心となり、人権に関する発信を行っている。保健室前の廊下にタペストリーを掲示し、始業式・終業式でも報告される。また「私の言いたいこと・やりたいこと」コーナーとして、昼の放送で生徒が自分の思いを発信する取組みも行っている。</p> <p>市内小中学校へは人権に関する出前授業も実施した。</p> <p>⑦ 安心・安全</p> <p>避難訓練は、1 学期に引き渡し訓練を含む総合避難を実施した。課題を共有しながら改善していく。</p> <p>⑧ 巡回相談・医療的ケア</p> <p>医師による巡回相談は実施しているが、専門職でないと対応できない場面もあり、看護師と連携しながら健康管理を進めている。</p>
------------------------------------	--

⑨ 教育自己診断と次年度計画

学校教育自己診断の結果は、第3回でご報告する。

また、国から示されている「医療的ケア児の健康確保措置実施計画」を策定する必要があり、中期目標にもかかわるため、来年度の学校計画に盛り込んでいく。これについても第3回で示す見込み。

〈山本委員長〉

各学部が取り組んでいる進捗状況について教えてほしい。

(高等部)

〈丹羽部主事〉

社会科の方でシラバスを見直し、将来に向けた取組みとして、「選挙」について協議してきた。箕面市の選挙管理委員会と連携して、12月10日に体育館にて、全学年を対象に出前授業を行う。これまでも、生活課程の生徒や家庭科で、授業を行ってきたが、肢体不自由の生徒にも必要なことということで、全員で実施することにした。社会科教員を中心に準備し、各授業で取り組んでいる。やってみないとわからないところもあるが、計画を進めているところである。

その他、3年生は進路について、本格的に取り組んでいる中、修学旅行やもみじフェスタもあったが、頑張って取り組んでいた。2年生は実習が始まった。1年生は進路希望を調査している段階である。

〈阿久根副委員長〉

新しい取組みがあるのか聞こうと思っていた。新しく選挙に取り組むことがあったので素晴らしいなと聞いていた。実践に繋がる教育は大切なので、実施後の様子を聞かせてほしい。

〈大辻委員〉

進路について。高等部の保護者の方々から事業所へ見学に行き、子どもの将来のことを考えて、動かされているのをよく聞く。高等部の入学した時はまた一緒に考えていただければと思う。

〈山本委員長〉

高等部の生徒の思いを汲み取っている計画だと思う。今後、実施後の様子を聞かせてほしい。

(中学部)

〈竹中部主事〉

1学期に見ていただいた「みの祭り」について。今まで総合学習の時間で取り組んでいたものを、今年度から、シラバスにも組み込み、教科横断的な取組みとしている。学部行事に位置付けすることで、1つのテーマに向けて活動を行い、生徒も深い学びとなった。

12月のお楽しみ会も、学部行事に入れ、「ミュージックフェア」として、音楽の授業を中心幅広くそちらに向けて動いているところである。

修学旅行は、毎年滋賀方面で計画をしているが、今年度は大阪万博や国体もあったため、宿が取れなかった。そのため、2年生の宿泊学習と同じ兵庫県にあるフルーツフラワーパークを中心に活動をしたが、ペースト食を提供できる宿泊場所が少なくなってきた

とが反省としてあげられている。

〈山本委員長〉

自立活動と各教科との繋がりについて。自立活動の時間における指導は、学校教育全体で取り扱う自立活動の指導のいわば根幹であるという位置付けがある。その中で、学校の教育活動全体を通して行う自立活動と、主な障がいの様子や、もともとの発達のプロセスにおける経験、体験が持ちにくいくことからくる「得られていないもの」を、各教科の系統的な位置付けの中でやっていくことは難しい課題である。これは、中教審の学習指導要領改訂の特別部会の論点整理にもあったが、どこの学校でも課題となることである。

また、特別支援学校では、自立活動と各教科の学びがどのように結びついていくかが根幹にあり、学校教育は「教える」、「指導する」こと、乳幼児期は「促す」、「気が付かせる」ことが主体となる。各教科で実施する内容が、児童生徒が一人でもできるようになるためには、自立活動と繋げることが重要である。総合的な学習の時間のように教科横断的に学習を行うと、なぜこの学習が必要なのが見えにくくなってくるように感じた。全国的にも同じような課題が挙げられているが、そういう流れから中学部の学部行事として取り扱い、総合的な学習の時間になったということか。教科横断的な取組みをしているのであれば、今後は、自立活動で育てたい力「生き抜く力」が各教科の学習にどう繋がっているのかを見られると、教育活動としては面白いと思った。

〈阿久根副委員長〉

いろいろな取組みを、皆さんでやられるところから得られる効果っていうのは非常に大きいと思いながら聞かせてもらった。このような実践、実学を通じて得られる効果を、どう次に繋げていくのかをまた次教えていただきたい。

教育内容の工夫を日々なされておる中で、修学旅行でのペースト食の提供が難しくなっているのは、社会の環境であったり、宿泊先との調整をどのようにしたりするのかという難しさもあると感じたが、宿泊場所で、障がいのある方が泊まりやすい場所はあるのか。

〈竹中部主事〉

今回は「神戸フルーツフラワーパーク」に宿泊したが、いろいろな支援学校も行けるようなホテルでバリアフリーでもあり、ペースト食も提供してくれる。

〈阿久根副委員長〉

私たちも高齢者も障がい者事業も行っているが、外出時の食事確保は苦労している。バリアフリーは進んでいるが、ソフト面は非常に難しいと感じている。大変ご苦労があると思うが、様々な対応をしてもらえる施設が増えたらいいと思います。

〈大辻委員〉

修学旅行から帰ってきた時は疲れている様子だったが、それだけ楽しい経験ができたのだと思う。今回の話を聞いて、ペースト食の問題について考えさせられた。家族旅行でも以前のようなサービスが受けにくくなっていると聞き、社会全体が障がいのある人を受け入れる体制が広がってほしいと感じた。

(小学部)

〈長峰部主事〉

今年度の入学生は13人だったが来年度も同数の予定である。傾向として、人工呼吸器の必要な児童がいる一方、地域の小学校が知的障がいの支援学校と迷わされた末に、本校を選

ばれる方が多い。そのため、看護師が呼吸器のサポートをしている横で、走り回っている児童がいて実態が多様化してきていると感じた。そのため、知的障がいのある児童への対応も必要となってきた。

大規模災害に関するキャッチフレーズの4番目、「安全・安心」について。先日、大震災を経験した医師から研修を受けた。その際、「災害時は、主治医の病院に行けばよい」と想像していたが、大災害が起きた時は、まず生命の危機にある人を優先して対応するため、「呼吸器を使用していても、必ず診てもらえるわけではない。電源は貸せるかもしれないが、2~3日は家庭で対応してもらいたい。診ることもできない場合もある。」という状況になるとのことを聞き、大きな気付くなつた。

〈阿久根副委員長〉

入学時に、保護者と文面でアセスメントを捉えたり、医ケアの内容であつたり教育の方針であつたり共有することはあるのか。

〈長峰部主事〉

まず、保護者の聞き取りを行い、本人のプロフィールを作る。その中で「できること・できないこと」は事前に伝えている。例えば、給食への対応で、本校ではホームページにも掲載している通り、食物アレルギー対応はしているが、病態治療食や宗教食などの対応はしていない。そういう場合は、弁当を持参していただいている。その中で、「そのような食事にも対応してほしい」との要望があると、学校としては難しい旨を伝えるが、相談を受ける場合がある。その状況で入学した場合、トラブルを避けるためにも、書面で取り交わしておいた方がよいのではないかと感じることもある。

〈阿久根副委員長〉

小学部の入口は、保護者の期待と学校のできる限界とのそのすり合わせは大事になる。

また、医ケアはマンパワーでやっているが、他の現場では、アシストテクノロジーやAIもうまく活用されてる。学校現場でテクノロジーやAIを使い、医ケアの方の情報を一部管理（カメラとかセンサーも含めて）できるようなことは進んでいるのか。

〈李首席〉

看護師の中でAIを活用しようという話はある。本校では1人の看護師が決められた児童生徒を担当するのではなく、誰かが休んでも別の人気が対応できるようにローテーションを組み、たくさんの児童生徒を見られるよう、体制を整えている。そうなると、児童生徒の状態を記録し、次の担当者に引き継げるようにならないといけない。その記録方法で、例えば1学期中の様子の記録を入れると、1学期のサマリーをAIが作成してくれないかと考えたことがある。ただ、個人情報の問題があり、今のところは断念している。したがつて、最新のテクノロジーは活用できていない。記録方法については、今まで手書きだったものを今年度からGoogleのスプレッドシートを使用し、同じシート上で操作できるので、作業時間は短縮できた。

〈阿久根副委員長〉

介護の現場も日々の記録は、ある意味で間接業務でありながらも、かなりの時間を要している。このあたりは今かなり進歩していて、入力から音声入力に変わり、精度も高くなっている。また情報共有は、インカムを活用することによって、リアルタイムでの連携が可能となる。応援が欲しいのに内線まで行けないという時には、インカムが事故防止に繋がっている。今後こうしたツールを積極的に活用することで、先生方の負担軽減、精

神的な安心にも繋いでいくのではないか。そうした情報共有についても、一緒に取り組ませてほしい。我々も進化させていこうとしているので、お互いに見学し合い、活用できるものを共有できればと思う。

もう一点質問。外国の方々が増えているが、支援学校においてもそういう傾向はあるのか。

〈長峰部主事〉

1名在籍しているが、保護者との言葉の面が課題となる。そのため、入学前からスマートフォンのアプリを使い、やり取りをしていたが、電話応対ができないことが課題となる。懇談などは翻訳機能を使い、文章を会話にして伝えている。大事な連絡は日本語でメールし、保護者で翻訳してもらっている。

〈阿久根副委員長〉

言葉の壁は教育現場で課題となっていると聞いている。何か事前に準備も必要なかもしないと思い、聞いてみた。

〈山本委員長〉

AIの活用に関して。費用が掛かると思うが、予算面では可能なのか。

〈切通事務長〉

何を買うかにもよる。

〈李首席〉

看護師との話し合ってただけで、具体的な商品まではまだ見ていない。

〈山本委員長〉

使うのであれば、医療機関でも使われているアプリが良いと思う。そうなると予算が必要となる。例えば、理解ある保護者にお願いをして、試験的に使用してみてもいいのではないか。やってみたら思っている以上の効果があるかもしれない。

〈阿久根副委員長〉

変化をすると否定的な意見が必ず出てきたり予算的な課題があったりするが、定着するととても楽になる。

〈大辻委員〉

箕面市は、障がいがあっても地域の公立学校に通いやすいという印象がある。小学校は地域で学ぶ子どもが多い一方で、中学校は支援学校を選ぶ家庭も増えていて、先生方の負担が大きくなっているのではないか。他県から引っ越してきた知り合いの家庭は、車椅子の子どものために家にエレベーターをつけたところ、自分で移動できるようになり、お子さんの自立が大きく進んだと聞いている。この経験から、「できない」と決めつけず、小さな挑戦を重ねることで子どもの成長が見えてくると改めて感じた。先生方は大変だと思うが、こうした前向きな変化もあることを共有したくてお伝えした。

〈山本委員長〉

箕面支援学校の先生方は高い教育レベルで活躍しているが、普段「こう見ている」と思っている視点を疑ってみることも大切。経験を通して「思っていたことと違った」という発見や気付きが多くあり、こうした経験やアドバイスは先生自身だけでなく、他の先生にも参考になることがある。今までにそのようなアドバイスをしたことはあるか。

〈宮脇首席〉

単調にやっているところを、違う先生が他の対応した時にこういうやり方があるのか発見できる時がある。同じ生徒を同じ教員が見るより、いろんな人の目線でやるとその新しい発見ができるのはすごく感じる。

【令和8年度使用教科用図書について】

〈北村首席〉

現段階では、校内で選定をし、教育委員会からの採択を待っている状況である。近々、採択の結果が来る予定である。各学部とも徐々に教科用図書も増やしている。準ずる教育の教科用図書も選定をしている。

〈山本委員長〉

知的障がいのある肢体不自由の児童生徒に知的の教育課程を当てはめてるのも違うと思う。ほし本の内容にもよるが絵本の方がいい場合もあるので、また考えていただければと思う。

〈藤嶋首席〉

保護者のニーズは昔からあるものの、最近はさらに多様化しており、学校だけでは対応が難しいケースも増えてきている。特に小学部では、入学前から保護者対応に時間を割く必要がある。学校給食では、普通の学校では対応が難しいペースト食やムース食などの特別対応が必要な子どもが増えており、厨房や業者の負担が大きくなっている。「なぜ特別対応できないのか」と問われると、現場として返答が難しい状況である。

〈山本委員長〉

そのような社会規範がすごく増えたように感じる。個人が疑問に思ったことが通るようなところがある。だからこそ書面で対応するという方法もあるのではないか。それに、箕面支援学校はコーディネーターが多いので、給食コーディネーターなどを設置してもいいかもしれない。その分野の専門家が、うまく対応するのが良いのではないか。

〈松田教頭〉

高等部では性教育に関する相談が増えている。学校だけで対応するには限界があり、短期間で理解するのが難しい生徒も多いため、幼いうちから系統的に性教育を行う必要性を感じている。また、教師自身も十分な性教育を受けていないため、家庭との協力も重要である。

また、個人情報の取り扱いについて、検討が必要になる。紙媒体で配付をする場合、間違って配付をすることがある。教員も児童生徒の帰りの準備や医療的ケア、生活指導を行なながら、個人情報を取り扱わなければならない現状で、誤配付を起こさせないための方法を考えているところである。

〈山本委員長〉

個人情報の取り扱いについては、分業化し、個人情報を取り扱う部署を設けるのも一つかもしれない。

〈千馬委員〉

以前PTAで性に関する勉強会が開かれ、講師の話も聞いた。その中で、子どもたちは知らないうちに性に関する欲求や行動が出てくることがあり、家庭でもきちんと教えたり対

応したりする必要があると学んだ。また、学校や親が協力して子どもの理解とサポートをしていくことが大切である。

〈山本委員長〉

他県の特別支援学校の肢体不自由校でも、先生方が授業をしているのを見るが、箕面支援は良い意味で違うと感じた。子どもたちと話し合いながら決めていることを、本物としてどう実現するかを楽しみながら一生懸命取り組んでおられるのだと思う。改めて、素晴らしいなと感じた。

〈千馬委員〉

先生方は体力が必要であるが、自分が元気でないと子どもたちにその元気を伝えられない。大きな声やリアクションで子どもたちの能力を引き出すのは大変な仕事だが、それによって子どもたちの力も引き出されていることがとても感じられる。

〈阿久根副委員長〉

本当に毎回活気のある雰囲気を感じ、私たちも楽しませていただきながら、また色々勉強させていただいている。先生方も本当にいろいろな役割を演じながら、本当に大変だと思うが、本当に一体感があって、いい環境だと思った。今日もありがとうございました。

〈大辻委員〉

いつも「もみじフェスタ」を見た後に思うのは、先生方が本当に一生懸命準備をし、子どもと相談しながら取り組んでいることはもちろんだが、それ以上に先生方自身が楽しんでやってくれているのが伝わってくる。「本当にいいものを見られたな」という気持ちになり、今後もこのような取組みが続くことを願っている。

【校長より】

学校見学も含め、色々アドバイスいただきましてありがとうございます。第3回もよろしくお願ひします。

【事務局より】

第3回目は、学校教育自己診断や規約の改訂についても議題とさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。